

三中だより

令和2年度 6月号



令和2年6月3日発行
荒川区立第三中学校
(学校通信 No. 1)
校長 小柴 憲一

「社会を構成する一員」としての自覚をもつこと

今年度より、校長として着任いたしました 小柴憲一 と申します。前任の、清水隆彦 校長は、本校で延べ10年間、校長として勤務し、保護者・地域の皆様方から厚い信頼をいただき、区外からも注目される荒川区立第三中学校を築き上げました。そのような、名門校に着任できたことは感慨無量でありますとともに、その重責に身が引き締まる思いでございます。

1 これまでのキャリア教育と同じ方向

さて本校は、全ての教育活動を通してキャリア教育を推進してきました。キャリア教育とは、「将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力を育成する教育」と言い換えることもできますし、もっと簡単に言えば「社会人として求められる資質・能力を育成する教育」と言うこともできます。

これは、義務教育最終段階として非常に重要なことで、成人年齢の引き下げにより、教育現場ではより一層注目されております。実際、今年度より、荒川区でも、小学校1年生から、「キャリア・パスポート」という冊子を活用するようになりますが、その中をご覧になると、子供たちにどのようなことを考えさせようとし、どのような力を身に付けさせようとしているのかが、もう少し具体的にご理解できるかと思えます。

今年度、私は経営方針の柱を「『社会を構成する一員』としての自覚をもたせること」といたしました。これは、これまでの本校が向かおうとしていた点とほぼ同じと言っても過言ではありません。しかも、「社会を構成する一員」の「社会」という用語を「学校」「学年」「学級」「部」「委員会」などに置き換えれば、比較的、子供たちにとっても分かりやすい表現ではないかと思えます。

先日の始業式、入学式では、新型コロナウイルス感染症に関わり、「社会を構成する一員として」について触れながら、次のような話をしました。

【要点】

●1点目は、「ジレンマ」「葛藤」です。

今回、「健康の維持や命を救うこと」と「社会・経済活動を支えること」など、どちらも重要だけど両立させることは難しいと感じたことはあったでしょうか。そのような場面は、身近な学校生活でもあります。答えが一つとは限らない、またどちらも正しいけど対立があるなどジレンマに陥ったとき、まず大切なことは、一面的な見方で解を求めるのではなく、それぞれの価値を理解し、悩み考える姿勢をもつということです。

●2点目は、「新しい生活様式」「新たな日常」です。

正解が何か分からないときでも、私たちは「自分はどうすべきか」「自分に何ができるか」を判断し、実践していかなければなりません。今回の場合は「新しい生活様式」「新たな日常」です。みんなとともに学んでいくという学校生活には、相反する生活様式のように思えますが、当面は、自分だけではなく相手や医療提供体制維持のために、感染拡大防止を図る生活をするのが私たちにはできることです。

●3点目は、「誹謗・中傷」「偏見・差別」です。

それでも、身近な誰かが感染することがあるかもしれません。すでに、我が国でも、感染者、濃厚接触者、医療従事者とその家族への誹謗・中傷が起きています。また、感染症に関する説明が十分ではない、だから不安だ、ということから偏見や差別につながっている事例もあります。そのような中、小中学生の中で起こる誹謗・中傷やいじめ行為を、私はとても危惧しています。人を菌呼ばわりしたり、根拠もないのに意図的に避ける行為をしたり、今回の感染症の名前を人のあだ名にしたりするなどは、断じて許されることではないとともに、「人としてとても次元の低い行為」だと思ってください。

●今後も、新型コロナウイルスに関する国内外の動きは様々変容し、新たな問題も出てくるでしょう。そして、そのたびに、学校の生活も変わってくると思われます。数年後の教科書には「2020年 新型コロナウイルス感染症」が掲載されることになると思われるほど、歴史上の大問題です。最後になりますが、皆さんはまだ社会人ではありません。しかし、「社会を構成する一員」としてこの問題について自分事として考えてもらうことを期待し、私の話とします。

今回の新型コロナウイルス感染症による我が国への影響は、いずれ教科書にも掲載され、後世に教訓を生かすための史実となると思います。

一方で、原発事故の際に起きた、「放射能がうつる」という大人の誤った理解から生じた子供のいじめ行為は繰り返されてはいけないと考えますし、子供たちが「社会を構成する一員」としての節度ある言動がとれる人材になれるよう努めてまいりますので、保護者の皆様のご協力をお願いいたします。

2 今まで以上に成果を高めるための新たな視点と研究

現代社会では、グローバル化が進展する中で、様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きることや、科学技術の発展や社会・経済の変化の中で、人間の幸福と社会の発展の調和的な実現を図ることが一層重要な課題となります。そのような社会では、一人一人が高い倫理観をもち、人としての生き方や社会の在り方について、時に対立がある場合や解が見えない場合も含め、自ら感じ、考え、他者と対話、協働しながら、より良い方向を目指す資質・能力を備えることがこれまで以上に重要となります。今、まさに、世界各国が新型コロナウイルス感染症と戦っている様子を見て、子供たちは、そこに多様な価値観が対立しているのを見えているのでしょうか。また、健康・安全の確保と社会・経済の発展の調和を保つことの困難さを実感しているのでしょうか。

このことについて子供たちに考えてもらいたいために、私は式の話として「ジレンマ」を1点目としました。

学校教育の中で学習する「特別の教科 道徳」は、そのようなジレンマや心の葛藤場面があることに気づき、悩み考える態度を養う教科です。

例えば、「過ちをしてしまい、ある人の心を深く傷つけた友人が心から謝罪している」とき、寛容な心で許すのか、規則を尊重して定められた罰を受けさせるべきなのか。傷ついた当事者とそうでない人では見方は違うでしょうし、過ちの程度の測り方も人によって物差しは異なると思います。

しかし、ここで大切なことは、そのような問題に対して、短絡的に解を出すのではなく、自問自答しながら誠実に考え続ける姿勢であり、他者の感じ方や考え方と違う自分がいることを一人一人が認めることだと思うのです。このような態度が、様々なことに関して、単に受け入れて行動す

るのではなく、考えたうえで判断し実行する姿勢へと発展し、「確かな学力」や「健やかな体」の基盤となっていくのだと考えます。

本校では、これまでの研究で「討議・議論型の授業」を進めてまいりました。この研究の成果は、質の高い道徳科の授業の実現への可能性を秘めています。かつての道徳の時間という、読み物の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導や分かり切ったことを書かせたり言わせたりする指導という課題が指摘されており、特に高学年になればなるほど受け止めがよくないとも言われてきました。

そこで、本校は、今まで以上に成果を高めるための新たな視点として、小中一貫教育実践校として、また荒川区教育委員会教育研究指定校として、「考える道徳」「議論する道徳」に取り組み、義務教育の最終段階として、「社会を構成する一員」としての自覚をもった卒業生を輩出してみたいと思います。

PTAの皆様に感謝

- 現在、学校に備蓄してあるアルコール消毒液・マスクはあとわずかとなっており、発注はしていますが届かない状況です。
- 先日、本校 PTA より、アルコール消毒液とマスクを寄贈していただきました。
- 早速、入学式の日、新入生・保護者ともに、手を洗って会場に入る時間も場もない状況で、玄関で、いただいたアルコール消毒液を活用させていただきました。
- 深く、感謝申し上げます。

現段階で分かっている新型コロナウイルス感染症拡大による教育活動への影響

本校の教育を進めるに当たっての目標を述べさせていただきましたが、残念ながら、現状では実践困難な教育や研究が山積しています。すでに、始業式等の延期により、本校でも3月末から幾度となく指導計画を作成し直して今を迎えておりますが、今後も、荒川区教育委員会の考え方に基づき適宜適切に対応してまいります。

そこで、すでに5月8日付でホームページ上に掲載しておりますが、現段階で中止・延期が決定している教育活動につきまして、改めてお知らせいたします。

●中止

教育活動	当初の実施予定
保健体育のプール指導<夏休みを含む>	6月15日～9月25日
下田移動教室(2年生)	6月29日～7月1日
清里移動教室(1年生)	7月6日～8日
勤労留学(2年生)	7月27日～31日
被災地訪問(防災部)	(区)*7月29日～30日
ワールドスクール	(区)8月3日～6日
連合体育大会	(区)9月24日
オーケストラ鑑賞教室(2年生)	(区)10月28日(水)

※(区):荒川区として全校対象に同一日程で実施する事業です

●2学期以降に延期

教育活動	通知及び延期日程
健康診断	国の通知により6月30日まで実施のところ年度内に実施。
運動会	2学期に延期。文化的行事と重なる場合は精選することも検討。 ⇒本校では5月23日を10月24 [※] に延期します。
修学旅行(3年生)	宿泊地確保のため行先変更の検討をすることも含め、2学期以降に延期。 ⇒本校では追加料金が発生しないよう行先を変更せず、宿泊地の空き状況と本校の他の学校行事等との兼ね合いを考えながら、旅行者と調整しています。ただし、受験のための面談及び受験期や運動会の時期を外すと限定的になってしまいます。

※ 10月24日は、当初「輝夕祭」が予定されていました。荒川区教育委員会からの「精選」について、「実施するかどうか」「実施する場合はどのような形式になるか」「実施するとしていつになるのか」について検討中です。